
ドラゴンボール外伝 神々の戦い

千聖ViVi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラゴンボール外伝 神々の戦い

【Nコード】

N9043J

【作者名】

千聖ViVi

【あらすじ】

魔人ブウ消滅から2年後。

平和な時を過ごしていた悟空達の前に現れたのは
オリンポス十二神だった！！

神々（前書き）

ドラゴンボールのブウを倒してから2年後が舞台となっておりますが、

この後の天下一武道会や、GTなどとは一切繋がりません。

逆に言えば、誰がどうなるか予想がつかないといった感じで…

IF作品として、どうかよろしくお願いいたします。

神々

魔人ブウが消滅してから2年が経った頃

カメハウスでは、久しぶりに悟空と仲間達が集結していた。
孫悟空と悟飯、クリリン、ヤムチャ、ブルマ、天津飯、餃子……。
そして亀仙人とウミガメ。プーアルとウーロンもいる。
みんな共に戦った仲間達である。

「いやー、しかし、あれからもう2年も経つとはなあ」

そう話しだしたのはクリリンだった。
地球と全人類を賭けて魔人ブウと戦ったのが既に2年前だなんて、
時の流れの早さには驚かさせられる。

「ホント、あの時はもう駄目だと思ったわ」
ブルマが当時を振り返る。

「まったくだ」
相槌を打つのはヤムチャだ。

「お父さんのおかげですよ」
息子である悟飯は悟空に感謝していた。

「オラだけじゃねえ。みんなの力でブウをやっつけたんだ！」
悟空はそう答えた。

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ……

そんな和やかな空気の中、突如地面が揺れ始める。

「い、一体なんだ!？」

天津飯と餃子が辺りを見渡すと、さっきまでの青空は消え、真っ黒な雲に空が覆われていた。

「な、なんだ…あれ…」

クリリンが指を指した方向には、3人の人影が浮かんでいる。とても邪悪な気……

「これはヤベエかもしれないねえぞ! みんな、カメハウスの中に非難しろ!」

悟空が声を掛ける。

「そうはさせない」

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ……!!

カメハウスは急に爆破した。

「ああああ! わしのカメハウスが……」

「き、キサマら何者だー!?!」
ヤムチャが叫ぶ。

「我々は神……」

「カミ!？」

神…という地球の神様やデнде、界王神様くらいしか思いつかない。

しかしその3人は、誰とも違う独特な気配を漂わせていた。

「最高神ゼウス」

「大地の女神デメテル」

「知識の女神アテナ」

「我らを人はオリンポス十二神と呼ぶ!」

「そ、その神様が何のようだ!」

ヤムチャが尋ねるとゼウスはこう答えた。

「貴様ら人間どものせいで森は枯れ、海は汚れ、そして生命は死んでいった。 私たちはお前らを許す訳にはいかないのだ」

「確かに人間達は自然を破壊したわ!…でも、それは生きるために…」

ブルマの反論など意味をもたなかった。

「自動車やコンピュータが、果たして生きるために必要なものかしら?」

アテナは答えた。

「もう私たちは黙ってられない」

デメテルはそう言い、ゼウスは頷く。

「我々、十二神と貴様ら人間どもで一对一の勝負を申し込む。断れば……地球はどうなるか分かってるな？」

こうして、孫悟空達と神々の戦いが始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9043j/>

ドラゴンボール外伝 神々の戦い

2010年12月10日21時40分発行